

# 深化する各支部読書会

会長 辻 井 栄 滋

## A Happy New Year

新世紀はすばらしい時代！と喧伝されていましたが、  
地球は悲鳴をあげ、人間社会も混迷の度を深めています。……

今年の年賀状は、こんな書きだしで始めました。アッという間に新世紀ももう6年めに入りましたが、会員の皆様にはつつがなく新年・正月をお迎えになられたことと存じます。

わが J・ロンドン協会が発足して早まもなくまる13年が経過しようとしております。現在、会員数は百名を越え、着実に発展を遂げています。これもひとえに皆様方のご尽力・ご協力の賜と感謝いたしております。

年次大会も、毎年開催地を変え、遠近を問わず参加していただいています。(この6月には鹿児島で開催します。) 会誌『呼び声』も、年2回の発行を続け、本誌でもう25号を数えます。この間さまざまな原稿を全国からお寄せいただきました。

「J・ロンドンへの旅」も、昨年5月26日～6月2日の実施で6回を数えました。毎回10名前後の方々が参加され、大きな感動と思い出を持ち帰ってくださっています。できれば今年も、夏休みの終わり頃に実施したいと考えておりますので、まだの方は(無論、リピーターも!) ふるってご参加ください。ロンドンの故郷を訪ねることで、彼の作品理解が深まるのは間違いありませんから。

私たちの諸活動のなかでもこのところとりわけ注目されるのは、各支部読書会の発展と深化だろーと思ひます。現在、3支部が活動していますが、いずれも着実に成長していき(『呼び声』の読書会報告およびエッセイ集 *Essays on Jack London and His Works* – 暮れにお届けしたものがもう4冊め!)。そのうちの1つ京都支部は、この1月7日で34回を数えましたが、その入会者および参加者数には目を見張るものがあります。

昨夏、ご縁があって、京都支部に入会され活動を開始された山口県は宇部市の宮本文子さんは、遠方より今回も参加され、まもなく次のような礼状を頂戴しましたので、ご紹介します。

冬枯れの木立の根元で水仙だけが伸びようとしています。厳しい寒さですが、先生にはお元気でお過ごしでしょうか。先日は“3倍お得な”読書会に参加させて頂き、まことにありがとうございました。出かけて行ってよかったなあと思ひ返しているところです。皆様のパワーをもらったので、佛大のレポートを日曜に、仕上げることができました。8月の海外旅行に、私もできたら参加させて頂きたく希望しますので、日程等が決まりましたら、是非、お知らせ頂きたく、よろしくお願ひします。“小学校を卒業できた”宮本より。(原文のまま)

2、3の付言が必要でしょう。“3倍お得な”読書会というのは、地域的に見て所属されるはずだった四国・中国支部読書会が年に1回であるのに対し、京都支部は年3回行なわれているから、という意味です。山口県から新幹線に乗って京都まで来られるのですから、その情熱には頭が下がります。“小学校を卒業できた”というのは、まとまった文章を書くのは小学校時に作文集に書いて以来、という意味で、今回のエッセイ集にはじめて書かれていたく感動されたことを述べておられるのです。ちなみに宮本さんは、佛教大学の卒論にあの『マーティン・イーデン』を取りあげる決意を表明されてもいますので、私としてもうれしい限りです。

エッセイ集といえば、今回の Vol.4 に至ってずいぶんとレベル・アップしてきたように思います。添削していても、そのことが実感できました。そういえば、大学教員である会員の方も感心しておられたほどですから。また、ある在米会員の方も、最近のお便りで、「今日、エッセイ集 Vol.4 が届きました。読ませて頂くのがとても楽しみです。去年はクリスマス・プレゼントに上の2人の息子に“White Fang”と“The Call of the Wild”をプレゼントしました。私も子供達に負けないように、読もうと思います。いつも『呼び声』には本当に元気づけられています。ありがとうございます。」と書いていただきました。

いろんな意味で、協会・読書会・エッセイ集・旅は、私だけでなく数多くの人たちの心の支えや励みになっているようです。今後も、各取り組みに積極的にご参加いただくことを願っております。同時に、こんな時代状況だからこそロンドンが百年前から発しつつけているメッセージを大事にしていきたいものです。どうぞ良い1年でありますように。

(2006年1月吉日)